

事務事業評価シート

(平成 24 年度実施事業)

事務事業名	沢田浄水場等運転・管理業務事業			事業コード	1261
所属コード	906104	課等名	上下水道局 沢田浄水場	係名	
課長名	上下水道局 浄水課長	担当者名	上下水道局 沢田浄水場長 藤澤 誠	内線番号	6902
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	快適な都市機能	コード	7
	施策	いつでも信頼される上水道事業の推進	コード	5
	基本事業	安定給水の確保	コード	1
予算費目名	水道事業会計 1 款 01 項 10 目 修繕費 (019-10) 水道事業会計 1 款 01 項 10 目 動力費 (020-10) 水道事業会計 1 款 01 項 10 目 薬品費 (022-10)			
特記事項				
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度		開始年度	昭和 50 年度
根拠法令等	「水道法」			

(2) 事務事業の概要

築川から取水した原水を人の飲用に適するように常に施設の点検整備を行い、浄水・減菌処理し給水区域内の需要に対応した水量を供給するもの。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

市政の発展に伴い水需要が拡大する見通しにより、第 6 次拡張事業として昭和 5 0 年に給水を開始した。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

市全体としては、水道使用者の節水意識の高まりと大口需要者の自家水（地下水）への転換及び人口の減少等により給水量が減少しているが、沢田浄水場水系は、盛南区域の拡大等により給水量は増加している。

また、水道水の安全性・安心性に対する意識は一層の高まりを見せており、「安全で安定的な水道水の供給」、「災害に強く、安心して使える水道」といった水道事業体への要求は今後も増

大することが予想される。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象 (誰が, 何が対象か)

- 浄水処理施設等
- 原水

(2) 対象指標 (対象の大きさを示す指標)

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 見込み
A 施設数	箇所	16	16	16	16	16
B 原水の取水量	m ³	9,450,553	9,534,698	11,826,000	9,740,859	11,826,000
C						

(3) 24 年度に実施した主な活動・手順

- 施設異常, 災害時等の職員の緊急出動回数
- 浄水量 (ろ過水量)
- 汚泥処理量

(4) 活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 施設異常, 災害時等の職員の緊急出動回数	回	7	12	10	7	10
B 浄水量 (ろ過水量)	m ³	9,134,256	9,249,895	11,707,740	9,454,686	11,707,740
C 汚泥処理量	m ³	4,185	3,443	4,000	4,403	4,000

(5) 意図 (対象をどのように変えるのか)

浄水処理施設等は 24 時間常に正常な運転可能な状態にする。

原水を水道法の水質基準等に適合した水道水として配水するとともに, 一方で発生した汚泥は環境に影響を与えないように処分する。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 施設の正常稼働(減断水無し) 率＝(1－減断水日数／年度の日 数)×100	□上げる □下げる ■維持	%	100	100	100	100	100
B 配水量	□上げる □下げる ■維持	m ³	8,429,390	8,524,453	11,096,000	8,642,101	11,096,000
C 汚泥処理率＝汚泥処理量／原 水の処理量)×100	□上げる □下げる ■維持	%	0.04	0.04	0.04	0.05	0.04

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	22 年度実績	23 年度実績	24 年度計画	24 年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	0	0	0	0
	⑤その他()	千円	88,097	80,772	96,256	89,759
	A 小計 ①～⑤	千円	88,097	80,772	96,256	89,759
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	13,762	11,796	10,000	10,000
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	55,048	47,184	40,000	40,000
計	トータルコスト A+B	千円	143,145	127,956	136,256	129,759
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

施設を 24 時間常に正常に運転するということは、水道水をいつでも必要な時に必要な量を使用してもらえることにつながる。

水道法の水質基準に適合した水道水とすることは安全でおいしい水を信頼して使用してもらえることにつながり、発生する汚泥を水環境に影響を与えないように処理し再利用することは安定供給に結びつく。

② 市の関与の妥当性

盛岡市の水道は、普及率 99% を超え市民の健康な毎日の生活に欠かすことのできない必要な

ものになっている。

この事業は水道法に基づき、安全かつ豊富低廉な水の供給を図ることにより公衆衛生の向上と生活環境の改善に寄与することを目的としていることから、市が行う事業である。

③ 対象の妥当性

浄水処理施設は、給水区域内に水道水を安定して供給すべく条件に適した位置に設置されており、また、原水は水道事業認可及び水利権の許可に基づいていることから、現状では見直す余地はない。

④ 廃止・休止の影響

沢田浄水場は、ライフラインである水道水の製造工場であり、この事業を廃止・休止することはできない。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

日頃より浄水場職員の技術力を高めることは、浄水場の安定した運転・管理の向上につながる。

(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

水道事業は水道使用者による受益者負担が原則であり、いつでも安心でおいしい水を公平に供し、その費用は条例により水道料金として定められていることから公平・公正である。

(4) 効率性評価

配水量は季節により増減しているが、配水量を的確に予測し配水池の容量を有効利用することにより、薬品使用量及びの節減を図れる。また、委託者の故障対応能力の向上により施設の故障等による職員の時間外出勤を減らし、人件費の削減を図れる。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 改革改善の方向性

職員の高齢化が進んでおり、後継者への技術の継承を進めていく。
施設の安定した運転を確保するため、計画的な機器等の更新を行う。
運転管理業務委託の受託者の技術力・履行状況の検証を行う。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

施設の老朽化に伴い、今後施設整備費の増加が見込まれることから、効率的な施設整備を進める。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- ☐ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☒ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

・受託者の技術力、履行状況の検証を行うとともに、水道技術の継承及び異動職員の早期技術習得、技術力向上を図ることを目的に作成している運転管理マニュアルの見直しを行い、これを有効的活用し業務を推進するとともに、将来の新庄浄水場との一元化について検討を開始する。